



横浜市立富士見台小学校 学校だより 第475号

令和5年9月29日発行 「10月号」

ふじみだい

「実りの秋に向けて」

副校長 岡田 大作

まもなく9月が終わります。4月の始業式から始まった令和5年度も半分が過ぎたこととなります。この上半期、学校の外に目を向けると、たくさんのスポーツイベントがありました。少し時期はフライングしますが、3月に行われたWBC (World Baseball Classic) に始まり、沖縄で8月に開催されたバスケットボールの世界カップ、現在開催されているラグビーの世界カップにバレーボールの世界カップ等々、数え上げればきりがなくたくさんの試合が行われました。にわかファンの私は、テレビの前でドキドキしながら観戦していました。私がいくらテレビの前で応援しようが、物理的な意味では声は届きません。それでも「頑張ってもらいたい」「勝ってほしい」という願いは、きっと届いていると信じて応援していました。

そして、試合の内容に興奮することもあれば、その後知る一人ひとりの選手たちのドラマに感動することもありました。もちろん、試合に日本チームが勝利する姿を見るのが一番うれしいことではありますが、ときには、応援していたチームが負けることもあります。それでも、対戦相手に対してリスペクト（尊敬の念）を忘れず拍手を送る選手の姿や、試合後に自分たちが使用したベンチやロッカールームをきれいに清掃する選手のことを知り感動しました。勝利を信じて声援を送る観客（ファン、サポーター、ブースター等々）も、試合が終われば相手を称え、帰宅前にはスタジアムを清掃するということを知り、誇らしくも感じました。

なぜ、こんなにも応援したくなるのかを考えてみました。「日本の代表だから。」「好きな選手がいるから」「〇〇チームが勝つとセールがあるから。」等々、様々な理由が思い浮かびました。でも、結局のところ、スポーツに限らず私は「頑張っている人」を応援したいのだと思いました。そして、選手の頑張りをみて自分も頑張ろうと力をもらっているのです。きっと、私と同じように感じている人はたくさんいるのではないのでしょうか。

昔、私も運動会の応援団の担当になったことがありました。そのときに、「応援団の一人ひとりが必死に応援している姿をまわりのみんなが見て、『自分も頑張ろう』と思ってもらえるようにしっかり応援していこう。」と話したことがあります。結果ではなく、頑張ること自体に大きな価値を感じてもらいたかったのです。

いよいよ、富士見台小にもスポーツの秋がやってきました。子どもたちは今、10月に実施する運動会に向けて、ブロックごとの演技や徒競走、応援団、リレーの練習に励んでいます。朝の会や休み時間にも、演技の曲が聞こえてきます。中休みには、応援団やリレー選手の練習の声が職員室まで響いてきます。もちろん、学習もおろそかにはしていません。前期の内容を振り返りながらまとめの時期に入っています。



＜運動会スローガン＞

これまでの一つひとつの学習や経験が子どもたちの力となり、大きく実る秋（とき）がくるように、全力で支えていきたいと思えます。保護者の皆様、地域の皆様、これからもご協力のほど、よろしくお願いいたします。